

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101897		
法人名	社会福祉法人 ゆず福祉会		
事業所名	グループホーム ユーズホーム		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字台1番1 (電話) 024-555-1213		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】 (平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木・鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,400 円	その他の経費(月額)	21,400 円
敷金	有 (150,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 72 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大原総合病院附属清水病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人設置運営のデイサービスセンター、居宅介護支援事業所併設の1ユニットのグループホームである。市街地の集合住宅にあり、地域密着型を実現するための周辺環境が整っていることから、管理者を中心に開かれたホームを目指し、運営推進会議の利活用も含めて前向きに取り組んでいる。グループホームの中庭では利用者が集まり談笑しており、自然な形で近くの住民が庭の手入れをしているなど地域との触れ合いがスムーズに行なわれている様子がうかがわれる。開設3年を経過し、職員も定着しており、利用者の尊厳を基本に据え、家庭的な環境の下で、地域の人との交流を図りながら一人ひとりを尊重したケアに努めていることが利用者の笑顔や雰囲気から感じられる。今後は個々の利用者の状態像を把握するためセンター方式を活用し利用者本位の計画策定に反映させるよう取り組むこととしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善を要する事項としては、ケアサービスがあげられているが、評価の結果を職員全員で理解し運営推進会議の中でも公表し改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で行ない、その結果を管理者が総括的に評価し職員に周知し精度を高めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は、今年度から開催しており、利用者の現状、活動内容等を中心に説明している。特に、改正法による新たな地域密着型サービスとしてのグループホームの理念を委員に説明し十分な理解を得ている。地域の行事にも積極的に参加するための情報を把握し、グループホームで活用しながら取り組みを行なっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員で広報委員会を組織し、定期的に「ユーズホームたより」を発行し家族に送付するなど状況報告を丁寧に行なっている。また、個別にも利用者の健康状態や生活状況を便りに書き込んだり、電話で随時情報を伝えている。また、適正に収支状況が記録されており、金銭出納についても併せて報告がなされている。今後は運営推進会議や家族会等を活用し、家族の要望や意見等が出されるよう発言の場を設定することとしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し、総会に出席するなどして、グループホームのパンフレットを配布したり、利用者の生活状況を説明し地域住民の理解と協力を求める努力をしている。地域の運動会への参加や近くの保育園児との交流、ボランティアの受け入れも行なっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が理念についての考え方を的確に把握し、改正法により新設された理念で地域との交流を図り、グループホームの役割を伝えることを職員全員が理解し、実現に向けて努力をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の壁や引き継ぎの場所等、目に付きやすい場所に理念を掲示し、意識して理念の共有を図り、行動するよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているので、地域の行事などの情報が得やすく、積極的に参加している。地域住民の理解も寄せられていて、植木を手入れしたり、畑を耕したり、消毒したりなどのボランティアを受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるにあたって、全職員に自己評価の項目を提示し、意見をまとめて作成している。管理者・ケアマネジャー・介護職員共々、サービスの質の確保に向けての取り組みが感じられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の設置が今年度からで日は浅いが、地域包括センター所長、町内会長、民生委員、家族会からの出席があり、会議録からは充実した内容がうかがわれ、利用者のケアに活用している。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人全体で発行する「ゆず福祉だより」の中にグループホームでの行事を写真入りで載せるほか、グループホーム独自の「ユーズホームたより」に利用者個人ごとの生活状況を親しみやすい手書きで作成し、金銭出納状況や、家族が付き添えなかった場合の通院・健康状況も併せて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会を開催して意見や要望を聞いている。また、運営推進会議の折にグループホームの職員が席をはずし、家族が他の出席者と気兼ねなく話せる時間を設けたりしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立後3年半ほどの間に隣接するデイサービスとの管理者交替と介護職員の適性を考慮しての職員異動が行われたが、結果として利用者に対するケアの向上に繋がり、利用者も落ち着いて生活していて、家族も安心している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修へ参加している。日常的には職場内研修（OJT）に重きを置いて、新人研修に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問して実態を視察し、参考になる事柄を積極的に取り入れるなど、情報交換を行っている。今後は、同業者同士のネットワーク作りを期待したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	祖父母との生活経験が少ない若い職員には、日常生活の中で和裁、衣服のリフォームなど人生経験豊富な入居者から教えてもらうことも多く、95歳の男性入居者からは元気をもらっていると言い、和やかな雰囲気の中で暮らしている様子がうかがえる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何を求め、望んでいるか知るために本人の言葉や行動から推測したり、家族から情報を得ながら把握に努めている。しかし、利用者の生活歴の把握が十分ではなく、利用者の持てる能力の評価に結びつけることが難しいようで、ケアマネジャーを中心としてセンター方式の一部導入を検討しているところである。	○	利用者がその人らしく暮らすためには、希望や意向の把握が不可欠である。現在センター方式の導入が検討されているので、利用者が希望する状態を身体機能面、精神面、環境面など多面的に把握し、能力の評価にも結びつけながら支援することが必要である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護職員が記載する個別の記録をもとに、定期的にケア検討会議やスタッフ会議を行い、介護サービス計画書の目標に向けてのモニタリングを行ない、利用者にとって適切な計画となるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々モニタリングしながら必要に応じて介護計画の見直しにつなげている。月1回のケース検討会議の際に、利用者の意向や家族の意見を取り入れ、利用者の状態変化に応じて変更し、3ヶ月ごとの見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力が得られており、基本的には家族の同行により、かかりつけ医の受診がスムーズに行なわれている。また、利用者のバイタル記録のコピーを持参してもらうなど適切な医療が行なわれるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けての対応が法人として明確化されていないため、グループホーム全体としての話し合いはなされていないようである。しかし、運営推進会議で家族からターミナルケアを希望する意見が出てきているようである。	○	重度化に対する対応が運営規定に明記されていないが、家族からも意見が出ているようであるので、家族や利用者の安心を確保する上からも急変時の対応や支援等の方針を統一し、話し合いを行ない共有化を図ることが必要である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本位のケアに努めており、プライドを尊重し言葉かけにも十分配慮している。職員に対する個人情報の漏洩防止には特に周知を図っている。また、個人情報使用に関わる同意書についても利用者等の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はそれぞれのペースでゆったりと自由に過ごしており、希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しは利用者と職員が一緒に行い、食事の準備や後片付けも利用者それぞれのペースで行なっている。しかし、今後は職員が介助するだけではなく、利用者と食卓を囲んで同じ食事をとるよう検討してほしい。	○	職員と利用者が同じ食卓を囲み同じ食事を楽しむことが必要である。「食」を通じて家族的な一体感が醸成されるので、職員の食費負担等について検討を望む。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別入浴を行っており、利用者の希望により入浴できるようにし、プライバシーに配慮し、さりげなく見守りながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	庭の手入れ、洗濯物を干したり、たたんだりすることや食材の買出しなど利用者の楽しみや役割を見つけ支援している。就寝前の少しの飲酒や食後の喫煙を楽しむ人もいるようである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を取り入れ買い物や散歩には頻繁に出かけている。また車椅子使用の方にも外出する機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。さりげなく見守りながら一緒に歩くなどして支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、消防訓練計画を作成し、日中と夜間、年2回定期的に避難訓練を行なっている。備蓄についても缶詰やレトルトのご飯、水等を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特定の利用者に対しては、個別チェック表により水分や食事の管理を行っており、その他の利用者については、個別記録表の中で食事や水分の摂取量を把握し、それぞれの嗜好により栄養摂取を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームはデイサービスと隣接しており、植栽された共用の中庭にリビングからテーブルを出して、季節の花が咲いているのを見ながら「テラスでのお茶」を演出して、楽しんでいる。室内は穏やかで清潔が保たれている。食事時にはテレビをつけずCDによる静かな音楽を流している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの生活習慣を大切にしている。家族の写真や思い出の品などが飾られて居心地の良い居住空間になっていて、独りで部屋にいたい人に対してはさりげなく見守るなどの確な配慮をしている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ユーズホーム

記入担当者名 小関 千里

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。